

## 教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

XING SHUYU

- ・教育哲学コース
- ・博士後期課程2年

### 成果の概要

自分は教育哲学コースに所属し、思想研究としての教育人間学を研究しています。今回の発表内容も哲学を中心としているもので、他の方々の実証研究とは様々な側面で異なっています。それゆえ、今回の交流会は自分にとって国際的な交流だけでなく、学際的な交流でもありました。今回の交流会を通じて挙げた成果は以下通りです。

#### 1. 香港の教育学研究の状況把握

今回の交流会で、香准大学教育学院のYang Rui学部長、Yang Lili教授、Zhu Yanzen博士および院生二名の論文または発表を拝読、拝聴しました。高等教育の研究において、積極的に中国哲学に基づく理論を応用し、西洋中心の現状に回答する姿勢はとても印象的でした。個人的には、三名の発表者に言及されたChung-Ying Chengの「存在論的解釈学」(Onto-hermeneutics)が興味深かったです。ただ、Yang Lili教授によると、このようなアプローチは香港大学のなかでも少数派であり、教育学研究のなかではやはり科学的、分析的な研究の方が主流のようです。このような状況は、アジアに文化的某盤を持ちながら、イギリスの植民地として西洋的な制度の歴史が長い香港の研究の現状を把握する上でとても示唆的でした。

#### 2. 香港大学と京都大学の学者との意見交換

冒頭に書いたように、今回の交流会は私にとっては国際的な交流だけでなく、学際的な交流でもあるゆえ、香港の方々からも、同じく京都大学側の参加者からも大きな刺激を受けました。香港大学については、上記の研究内容から受けた刺激とは別に、その国際交流に対する開放的な姿勢にとても感銘を受けました。異なる研究関心や信念を持つ人に平等且つ善意的に接し、対話と相互理解を推進する努力と態度に感心しました。

京都大学の他の参加者たちの発表テーマは、予備校の教育社会学、教育評価の方法論、「研究室」のエスのグラフィック研究、茶道の教育人間学的研究、日本の人権教育などあり、問題意識においても方法論においても幅広かったです。各人の研究関心によって、香港大学の研究発表に対する評価も異なり、それについて度々議論が盛り上がりました。

#### 3. 自分の研究に対する示唆

将来英語圏で研究者としてのキャリアを続けたい自分にとって、今回の交流会は自分の研究の位置づけを考える上でとても有意義でした。先述した通り、自分の研究は思想研究であり、そのアプローチについて香港大学と京都大学の間には大きな違いがあることに気づきました。香港大学の教育思想研究は、英語圏の西洋中心主義的な現状を問題として強く意識し、それに回答するために積極的に非西洋的な思想のリソースを用いています。その目的は、思想研究の「普遍性への追求」に隠蔽された学術的ヘゲモニーの脱構築であり、知的な脱植民地化であるように思います。それに対して、京都大学の教育思想研究は「人間についての（ある程度）普遍的な真理への追求」の性格が強く、そのため、用いているリソースの文化的背景より論理的整合性の方を重視しています。無論、自分にとって重要なのはどれかを選ぶというより、京都大学の知的伝統をある程度受け継いでいる同時に、将来英語圏で研究していくために、如何に両方を成果豊かな方向に総合していくのかという課題です。

以上のように、今回の交流会からは様々な刺激を受けており、自分にとってとても有意義な研究活動になりました。交流会を企画してくださった香港大学比較教育研究センター(CERC)と京都大学教育学研究科の先生方、および渡航と滞在支援してくださったグローバル展開オフィスに深く感謝申し上げます。